

## 学術会議への介入 政府に抗議の辞任

文化庁専門家会議座長だった東京大学名誉教授 佐藤康宏さん



### 専門家を尊重しないから

佐藤康宏東京大学名誉教授（美術史学）は、菅義偉首相による日本学術会議の会員任命拒否を報道で知った直後、文化庁の専門家会議「登録美術品調査研究協力者会議」の座長を辞任しました。任命拒否への抗議を示すためであり、「専門家を専門家として尊重しない政府のために働くつもりはない」と話します。佐藤氏に聞きました。（岡素晴）

### 法違反は明白

専門家を専門家として尊重しないと考える理由は、専門的な業績以外の評価軸で会員を任命するか、しないかを決めているからです。これは、「優れた研究又は業績」がある科学者の中から会員を任命するという日本学術会議法の趣旨と違います。法に明らかに反しているということが何よりこの問題の核心だろうと思います。

菅首相は、6人をなぜ任命しなかったのかについて、全く説明になっていない、後付けのような理由しか言いません。しかし、6人が安倍前政権のもとで強行された秘密保護法、安保法制などに反対していた人たちだったことに関係があると考えられます。

### 政府寄りに…

安倍前政権は、原則禁止されていた武器輸出に大きく踏み出しました。高性能の武器を開発するため大学などの研究機関の協力を得ようと、多額の研究費の助成を用意しています。これがもっと活用されるべきだとの意図が政府、自民党にあると思うのです。

だからこそ、「軍事研究は行わない」という声明を、一貫して継承する学術会議は目障りで仕方がない。それで、学術会議のあり方を検討している自民党のプロジェクトチームが公言している通り、軍事研究をさせるために、政府の都合の良い組織に変えたいとの狙いが任命拒否の背景にあるのではないのでしょうか。

(1面のつづき)

## 人類に寄与するのが研究



戦時中、軍部によって工学関係をはじめ、多くの学者が武器開発など戦争遂行のために協力させられました。

私が専門とする美術においても戦前・戦中、戦時体制の下で、コミュニズムの傾向がある作家のほか、シュールレアリスム（超現実主義）系統の作家が政府の弾圧を受けました。そういった作風の美術が衰退させられ、作家は戦争画や作戦記録画のようなものを描いて、戦争に協力させられた歴史があります。

美術史家の中にも、日本の美術とはいかに世界に突出してすばらしいものだというようなことなどを、とうとうと述べ、国威発揚の一環で戦争に協力した人がいます。

こうした過去の行いは、やはり学問の本来的なあり方からすれば、やってはいけないことだと考えます。

なぜなら、時の政権にとって、快くないようなこと、今の世の中にとって役に立たないようなことであっても、将来いつか重要になるかもしれない。未来の人類社会の発展のために寄与するかもしれない。そういうことを明らかにしていくのが研究です。

私は、学問・研究をよくサッカーに例えます。ゴールがどこかにあるとして、予想されているゴールの方に向かって少しでもボールを前に動かす。自分がゴールを決められなくても、後進を育ててパスをつなぐ。いつかはゴールに届く可能性を信じボールを進め続けるのが大切なのです。

そのために、政治からの学問の独立性というのは、憲法が保障する「学問の自由」に含まれる、絶対に必要な要件です。

任命拒否の次は、大学学長の人事も標的にされかねないと懸念されています。政府が今回、学問分野への介入姿勢を見せたことで、大学や研究機関などの側に自主規制が働いてしまうことも、ありうるかもしれません。

放送大学の客員教授だった2015年、私は単位認定試験の問題文で、戦時中に弾圧されたり、戦争に協力させられたりした画家を取り上げました。その上で「現在の政権は、日本が再び戦争するための体制を整えつつある」などの記述がある問題を出しました。試験実施後、大学側は、政権批判で「不適切」だとして、学内用ホームページに公表した問題からその部分を削除したのです。

「学問の自由に逆行する」と、抗議しても大学側は聞く耳を持たず、客員教授を辞めました。

今回の違法な任命拒否は、学術分野にとどまらず、国民全体に広く危険な独裁の影響を及ぼすのではないのでしょうか。内閣が勝手に法律を解釈していいという安倍前政権以来のやり方を許せば、やりたい放題ができてしまうからです。

自党内も含め、国会でまっとうな考えを持つ議員が行動を起こしてほしい。そのためにも、学術会議の問題に多くの国民が引き続き関心を寄せ、違法なやり方を認めないと声をあげることが必要だろうと考えます。

さとう・やすひろ 1955年生まれ。80年、東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了（日本美術史専攻）。東京国立博物館学芸部、文化庁文化財保護部をへて、2020年3月まで東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授。同年、伊藤若冲の評伝『若冲伝』で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

しんぶん赤旗 電子版 2020年12月24日